

## 名 誉 会 員 三 橋 博 先生の死を悼む

日本生薬学会元会長，同名誉会員，日本薬学会名誉会員，北海道大学名誉教授三橋博先生の突然の訃報に接し，まことに痛惜の念に堪えません。本学会会員一同を代表して，謹んで弔辞を申し述べます。

三橋博先生は，昭和19年東京帝国大学医学部薬学科を卒業，同年海軍に入隊。復員後，母校の生薬学教室に戻られました。昭和28年ワシントン大学に留学，同30年帰国。同年北海道大学医学部薬学科に助教授として赴任，翌31年に教授に昇任，生薬学講座を担当されました。昭和60年，停年にて退官されるまで教育・研究に尽され，多数の俊英を育成されました。北海道大学を退官後，鶴ツムラ生物・化学研究所所長に就任され，同研究所の拡充，発展に努められ，漢方の科学的解明に大きく貢献されました。

先生のご研究は，植物，生薬成分の構造研究，生合成研究，薬用植物の栽培研究，海産生物の成分研究など，非常に広い範囲にわたるものであります。中でも，北大にご着任間もなく始められたアイヌの薬物イケマの研究を端緒とするガガイモ科植物成分の研究は，ライヒシュタイン教授と提携して，東南アジア，南米地域の植物を分担され，まことに輝かしい業績を挙げられ，昭和40年には日本薬学会学術賞を受賞されました。先生は地域に密着したテーマを選び，これを世界的視野で展開され，数多くの業績を挙げられ，これにより昭和57年には北海道科学技術賞，北海道新聞文化賞を受賞されるなど，先生の業績はまことに素晴らしいものであります。

本学会のためには，昭和51年に北海道支部を発足させられ，長年にわたり支部長を務められました。昭和56年には第29回年会を主催，昭和59年には会長にご就任願ひ，本学会を総轄していただくなど，本学会の事業並びに運営にご尽力くださいました。先生の本学会への貢献はまことに大きく，会員一同深く感謝致しております。本学会は，先生のこれらのご功績に対し，感謝の微意を表すべく，先生を名誉会員に推挙いたしました。

ここに謹んで先生のご生前のご業績を称え，ご指導に感謝しつつ，哀悼の誠を捧げ，心からご冥福をお祈り申し上げます。

平成3年10月1日

日本生薬学会会長 西 岡 五 夫

## 名 誉 会 員 三 橋 博 先生の死を悼む

日本生薬学会名誉会員，三橋博先生の突然の訃報に接し，まことに痛惜にたえず，ここに謹んで弔意を表します。

三橋先生には，昭和19年東京帝国大学医学部薬学科をご卒業後，同大学医学部助手を経て，昭和30年8月北海道大学医学部助教授，昭和31年4月同大学医学部薬学科教授に昇任され，生薬学講座を担当されました。同40年北海道大学に薬学部が創設され，同学部教授に配置換となり，同60年3月停年により，北海道大学を退職されましたが，同年4月同学の名誉教授とされました。この間，同大学薬学部附属薬用植物園長を兼任されました。先生は，30有余年の同大学における教育研究活動を通じ，数多くの人材を産学研究機関に送り出し，日本の薬学の進歩に多大の貢献をされ，同時に，北海道大学において，評議員として，また各種学内委員会委員として，大学教育の向上に尽力されました。昭和60年4月からは，株式会社津村研究所所長に就任され，天然医薬品製造を通じ，国民の健康増進に寄与されてこられました。

先生の専門分野は生薬天然物化学で，次の諸点につき，顕著な業績を挙げられました。第一には，世界各地のガガイモ科植物から，抗腫瘍性などの薬理活性を持つ多数のステロイド化合物を同定されましたが，この業績は国際的に高く評価され，昭和40年日本薬学会学術賞を受賞されました。第二に，セリ科トウキ，センキュウから，自律神経系に作用する有効成分リグステライドを分離同定され，同時にフタライド類と総称する一連の化合物の化学構造を確定されました。第三に，従来医薬品外とされてきた，北海道産トウキであるホツカイトウキの成分・薬効を明らかにし，本州産ヤマトトウキと並ぶ，日本薬局方収載生薬とされました。第四に，中国西北部原産の，緩下剤として重要な生薬ダイオウの栽培法に取組まれ，北海道におけるダイオウ生産を可能とされました。この業績により，昭和57年北海道新聞文化賞ならびに北海道科学技術賞を受賞されました。

以上のように，先生は学術の進歩と産業の発展，特に地域社会の発展に多大の功績を残されました。

先生は公務多忙な身にかかわらず，日本薬学会，日本生薬学会の発展に尽力され，日本生薬学会会長の重責をになわれ，生薬学の進歩と，生薬の普及に尽力された功績は，まことに大きく，会員一同感謝の念を禁じ得ないところであります。日本生薬学会は先生のご生前のご業績に対し，平成3年名誉会員に推挙いたしました。

ここに先生のご生前のご功績を称えらるとともに，ご指導に感謝し，深くご冥福をお祈り申し上げ弔辞と致します。

平成3年9月3日

前日本生薬学会会長 金 子 光